

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題		
	<p>生涯学習については、きらめき講座を実施するほか、本市と包括連携協定を締結している市内4大学との連携講座を大幅に拡充させたり、NHK公開収録を行うなど、新たに数多くの市民に生涯学習の機会を提供することができました。</p> <p>また、生涯学習情報誌「Next Stage」として、市や市内大学、病院等の機関が実施する生涯学習情報を集約した冊子を紙媒体とホームページでも発信し、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。</p> <p>成人教育の推進については、市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するための社会教育関係団体等リーダー研修会などの講習会・研修会について、地域社会との連帯を図りました。参加者数は平成28年度に比べ減少しましたが、社会の要請を踏まえた講座内容の選定、対象者・周知方法・開催時期及び場所の再検討等を実施し、効果的に事業を運営することができました。</p> <p>公民館事業の推進については、各公民館で地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。また、現代的課題・地域課題の解決に向けた読み聞かせや地域の歴史などに取り組む館が増えました。</p> <p>図書館については、継続して資料・情報を収集・整理・保存し、提供するとともに、分館での新聞記事や判例のデータベースの提供等で情報へのアクセス環境の充実を図りました。子どもの読書活動の推進を図るため、担当職員が各学校の図書館を訪問し、司書教諭・学校図書館支援員からの相談に応じたり、情報交換を行い、子どもが読書に親しむ環境づくりに努めました。また、アンケート調査の実施により、今後も継続した取組が必要であることがわかりました。さらに、北摂地区公立図書館の広域利用の開始により、利便性の向上を図るとともに、ボランティアとの協働によるさまざまな取組を行い、図書館の利用促進を図りました。</p> <p>以上から、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	更なる生涯学習施策の推進に向け、次期生涯学習推進計画を策定する必要があります。	
			課題②	引き続き生涯学習情報誌発行に係る情報収集の呼びかけに力を入れていくとともに発行についてもより多くの市民に周知する必要があります。	
			課題③	成人教育に関する講習会・研修会の認知度を高め、参加者の年齢層の幅を広げていく必要があります。	
			課題④	地域の方が講座等の事業の企画、周知、実施をされているため、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みについて、それぞれの現状を踏まえ、連携しながら進める必要があります。	
			課題⑤	資料の貸出は同等で推移しているが、さらに多くの市民の学習意欲に応える必要があります。また、学校との連携を継続してすすめるなど、子ども読書活動の推進を図る必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	きらめき講座については、一部不開講の講座が出るなど受講者数は減少しましたが、本市と包括連携協定を締結している市内4大学との連携講座を大幅に拡充させたり、NHK公開収録を行うなど、生涯学習の機会を提供することができました。 また、『出番づくり』と題して、個人がスキルアップしたものを地域など社会に還元する仕組みづくりにも取り掛かり始めています。 そして、天文観覧室については、キャラクター着ぐるみの貸し出しやイベント出演など露出周知をはじめました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		大学連携講座受講者数	人	↗	39	903	1,000(H31)
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	12,758	12,943	14,500(H31)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生涯学習情報誌「Next Stage」として、市や市内大学、病院等の機関が実施する生涯学習情報を集約した冊子を紙媒体とホームページでも発信し、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。 市主催講座やイベント等については電子申込を可能にし、QRコードからも情報にアクセスできるチラシを作成しました。引き続きICTを活用した生涯学習情報を発信していきます。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		出前講座受講者数	人	↗	79,912	70,916	80,000(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-1-3	成人教育の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するための社会教育関係団体等リーダー研修会などの講習会・研修会について、地域社会との連帯を図り、社会の要請を踏まえた講座内容の選定、対象者・周知方法・開催時期及び場所の再検討等を実施し、効果的に事業を運営することができています。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		成人教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,244	1,002	1,055(H31)

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	講座開講数等は微減しましたが、地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。 また、現代的課題・地域課題の解決に向けた事業の取り組みとして、昨年度から各公民館へ実施を促している子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせ、地域の歴史について、講習会や地域事業である文化展において取り組む館が増えています。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,546	2,533	2,550(H31)

小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	440	438	420(H31)
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	回	↗	34	49	50(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	川上 成人
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	継続して資料・情報を収集・整理・保存し、提供するとともに、分館での新聞記事や判例のデータベースの提供等で情報へのアクセス環境の充実に努めました。子どもの読書活動の推進を図るため、担当職員が各学校の図書館を訪問し、司書教諭・学校図書館支援員からの相談に応じたり、情報交換を行い、子どもが読書に親しむ環境づくりに努めました。また、アンケート調査の実施により、今後も継続した取組が必要であることがわかりました。さらに、北摂地区公立図書館の広域利用の開始により、利便性の向上を図るとともに、ボランティアとの協働によるさまざまな取組を行い、図書館の利用促進を図りました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,892,606	3,843,809	4,088,000 (H31)
蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)	冊	→	1,249,715	1,255,632	1,234,000 (H31)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学大学院経営管理研究科 肥塚 浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 各施策の現状と課題の評価、総合評価の理由および課題についての記述は概ね適切であることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ただし、生涯学習についての普及啓発の推進についての参考指標である出前講座受講者数が79,912名から70,912名へと約9,000名減少していることへの言及がまったくなく、この事業の取組の評価として「b」をつけているのは、現状認識としても、評価としても不十分な記述であると考えます。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいつくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。また、本市のスポーツ推進に関する取組の基本となる計画を策定します。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	-
		施策関係課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題		
	平成29年度には、子どもが様々なスポーツの体験ができるよう、様々なスポーツを体験できる「キッズスポーツデー」や「かけっこ教室」を行いました。これらのイベントにより、700人以上の子どもにスポーツ体験を提供できました。 「キッズスポーツデー」の実施にあたっては、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員と協働して実施したことで、各競技への理解や、関係作りのきっかけとなりました。 障害者が施設を利用しやすいように、平成30年度に福井運動広場へ多目的トイレを設置できるよう準備を整えました。また、障害のある人となない人が一緒に取り組むことができるボッチャの大会を開催しました。 スポーツ指導者の資質向上のため、講習会を実施し、約170人の参加がありました。 市内ゴルフ場を活用し、Tポイントレディスゴルフトーナメントの開催により、市内外にスポーツの魅力を発信できました。 その他、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致に向け、関係団体と連携して取り組んでいます。 少子高齢化が進展する中で、子どもから高齢者まで、多様な世代が健康で豊かな人生を送るため、スポーツへの関心が高まっており、2020年には東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることなどを背景に、ますますその傾向は強まっていくものと考えられます。 この機会を逃さずに、より多くの人々がスポーツを楽しむことができるよう、市民がスポーツに取り組むきっかけ作りや、スポーツをすることができる環境の整備など、施策の方向性に沿った取り組みが順調に進められていると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。	
			課題②	子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組みを継続する必要があります。	
			課題③	高齢者や障害者がスポーツに取り組みやすい環境の整備に努める必要があります。	
			課題④	各スポーツ関係団体間の連携をいっそう充実する必要があります。	
			課題⑤	スポーツの技術指導に関する知識の向上を図るだけでなく、環境や時代の変化に伴い、指導者が直面する様々な課題に対応できるようにする必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名 牧原 博孝	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>これまでに引き続き、市や総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室・サークル活動のほか、新たに様々なスポーツの体験ができるイベントを実施するなど、スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進しました。</p> <p>また、市内ゴルフ場で開催される集客性のあるゴルフ大会の開催に向け、支援を行ったほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、産学官の連携によりホッケー事前キャンプ誘致委員会を設立し、ホーストラリア代表チームが平成30年度に本市で事前キャンプを実施することとなりました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		各市民体育館稼働率	%	→	82.7	82.9	83(H31)
市民プール利用者数(夏期を除く)	人	→	128,844	122,509	130,000(H31)		
市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数	人	↗	13,793	13,206	14,000(H31)		

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名 牧原 博孝	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>高齢化の進展に伴い、健康志向が高まっており、スポーツを身近なものとして、多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。</p> <p>その環境づくりの一環として、これまでに引き続き、総合型地域スポーツクラブの周知を図り、会員数を増やすとともに、スポーツ指導者講習・研修会の参加者数を増やすことができました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	↗	1,418	1,568	1,700(H31)
スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	↗	126	169	130(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学大学院経営管理研究科 肥塚 浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策の現状と課題の評価、総合評価の理由および課題についての記述は概ね適切であることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・スポーツ関係団体や指導者の育成の取組みについては、参考指標を見ても順調に進行しており、目標年度での目標値を達成する可能性は十分あり、取組の評価としては「a」が妥当であると考えます。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題		
	平成29年度には、市民との協働による文化のまちづくりを進めるため、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の実行委員会を再編し、多様な主体でプロジェクトを推進する体制を整備しました。 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、さまざまな文化振興イベントを開催し、市立ギャラリーには30,990人の入場が、また、文化振興イベントには17,066人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。市民会館跡地エリアの活用については、「市民会館100人会議」での意見や、市民会館跡地活用検討委員会での審議を踏まえ、文化芸術活動にふれる空間としてのホール機能の整備などの内容を含んだ「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」を策定し、コンセプト等を示すことができました。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、新たに、小学生対象の芸術文化講座や放課後子ども教室と連携した「子ども能楽ワークショップ」を実施し、多くの児童が参加しました。 キリシタン遺物「ロレータ聖母子像」「聖母子画像」の高精度複製品を製作し、企画展において公開したほか、本市の歴史的建造物(寺社)調査の実施や埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成を進めながら、優品(絵画土器)の記者発表や速報展を開催し、歴史遺産の保存・継承に努めました。 郷土への愛着心とブランド形成として、川端康成文学館では、若年層をターゲットとした企画やPRを強化し、年間入場者が平成28年度の8,263人から9,768人に、夏休み企画展の入場者が平成28年度の1,042人から1,588人に増加しました。また、川端康成青春文学賞を創設し、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」として、全国にPRすることができました。以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成には継続した取り組みが必要です。	
			課題②	ホール機能などを含む新施設の建設にめたっては、スポーツ利用者への対応や農水省の土地など、敷地設定に由来する諸課題の解決や、キーコンセプトである「育てる広場」の実現に向けた取組を進める必要があります。	
			課題③	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。	
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていく必要があります。歴史的建造物調査は、所有者をはじめ地元の方々に対して、同事業の趣旨を理解し、協力していただけるよう働きかけていく必要があります。	
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、市内3大学から学識経験者や観光協会などまちづくりを担う団体から推薦された方で実行委員会を構成し、プロジェクトの内容やイベントについて、様々な意見・アドバイスを受け、事業を推進しました。 facebook、TwitterなどのSNSを活用し、文化振興事業を積極的に投稿したことにより、2,635件の好意的な評価を受けるなど、市内外に向けたPRを進めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	95.3	86	100(H31)
SNS記事の好意的な評価数	件	↗	2,856	2,635	3,000(H31)		
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	5	6	8(H31)		

1	取組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容 イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 市立ギャラリーには30,990人の入場が、また、文化振興イベントには17,066人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。 「まちなかアートツアー」を「HUB-IBARAKI ART PROJECT」と連携して実施することで芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。 「市民会館100人会議」での意見や、市民会館跡地活用検討委員会での審議を踏まえ、コンセプトや敷地等を検討した「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」を策定しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	36,113	30,990	39,000(H31)
文化振興イベント参加者数	人	↗	19,628	17,066	21,000(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、小学生対象の芸術文化講座を新設するほか、放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施するなど、若い世代が芸術文化に触れる場をつくりました。さらに、川端康成文学館俳句コンクールでは、902件の学生応募がありました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,170	902	1,200(H31)
茨木こども芸術文化講座 参加者数	人	↗	—	73	75(H31)		

1	取組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	乾 友範
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	キリシタン遺物「ロレータ聖母子像」「聖母子画像」の高精度複製品を製作し、キリシタン遺物史料館企画展において公開しました。 本市の歴史的建造物(寺社)調査において、H28年度の予備調査をもとに、40件の本調査をおこないました。 埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、優品(絵画土器)の記者発表や速報展の開催をおこないました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,428	2,256	2,500(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木市らしさ”を大切にす る気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されて います。					
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末 現在の取組 の現状	取組の評価	評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	川端康成文学館では生誕月記念企画展を実施するなど、茨木市における文化の特色として 川端康成ゆかりの地であることを周知しました。若年層への広報をより強化したこともあり、年間 入場者が平成28年度の8,263人から9,768人に、夏休み企画展の入場者が平成28年度の1,042 人から1,588人に増加しました。 また、川端康成青春文学賞を創設し、短編小説を全国から募集することで、「川端康成が学ん だ教育のまち茨木」のPRを図りました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	8,263	9,768	10,000(H31)
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,042	1,588	1,800(H31)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学大学院経営管理研究科 肥塚 浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 各施策の現状と課題の評価、総合評価の理由および課題についての記述は概ね適切であることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 市民との協働による文化のまちづくりの参考指標である市立ギャラリー稼働率および文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりの参考指標である市立ギャラリー入場者数のいずれも前年度よりかなり低下しているが、これは単年度の特殊事情によるものであればその記述が必要であり、そうでなければ何故低下しているのかについての説明が必要であると考えます。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—
		施策関係課	まち魅力発信課、北部整備推進課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	★官民協働で観光事業を推進		

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題			
2	平成28年度から2か年にわたり、イベントを含む市内の観光資源の認知度や満足度等を把握するため、「資源活用・地域経済活性化実態調査」を実施しました。 観光資源の発掘・ネットワーク化の推進について、「阪急京都線沿線観光あるき」では、山間部と市中心部の2つのコースを実施し、昨年度を上回る82名の参加があったほか、大阪府とイオンリテール株式会社主催の「高槻・茨木ウォーキングツアー」にも連携しました。 また、北部地域においては、新たに、地域と連携して「いばきたフォトサイクリング」を実施したほか、市民の参画のもと北部地域の魅力発信冊子「いばきた」を改訂し、新たなファンづくりに努めました。 観光情報の発信については、本市ホームページやSNS、広報誌の活用のほか、観光協会と連携してマップの配付や主要駅での情報発信、北おおさか信用金庫と追手門学院大学による「北摂エリアマッププロジェクト」と連携した広域での情報発信に取り組みました。「いばきたフォトサイクリング」や「いばきたハイウェイウォーク」等のイベントを活用し、北部地域の魅力発信にも努めました。 民間団体等と協働で取り組む「茨木フェスティバル」、「いばらき光の回廊」については、事業者や学生など、多くの方の参画を得て実施し、市内外から多くの来場者に楽しんでいただきました。また、観光協会や民間団体が実施するイベント等を支援し、本市への誘客やまちのにぎわいが創出されました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	市内のスポットやイベントへの来訪者が、他のスポットに立ち寄る割合は低く、回遊性の向上につなげる工夫が必要です。	
			課題②	より効果的に観光情報を発信するためには、広報誌等の市独自の手段のみならず、マスメディアやタウン情報誌、交通事業者など、民間企業との連携を広げることが必要です。	
			課題③	各種観光事業を実施している観光協会については、今後の新たな展開に向けて、財源の確保を含め、自主的な運営に向けた体制強化が必要です。	
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-1 ★観光資源の発掘とネットワーク化の推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	まち魅力発信課、北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	既存観光資源のネットワーク化と新しい資源の創出			
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	「資源活用・地域経済活性化実態調査」において、イベントを含む市内の観光資源の認知度や満足度に関するアンケート調査を実施しました。 「阪急京都線沿線観光あるき」では、山間部と市中心部の2つのコースを実施したほか、大阪府とイオンリアル株式会社主催の「高槻・茨木ウォーキングツアー」とも連携しました。 北部地域においては、自転車を活用し、地域の魅力発信やネットワークを目的とした「いばきたフォトサイクリング」を地域との連携で新たに実施したほか、市民の参画のもと北部地域の魅力発信冊子「いばきた」を改訂し、新たなファンづくりに努めました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		「阪急京都沿線観光あるき」参加者数	人	↗	67	82	80(H31)
「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	456	418	600(H31)		

1	取組	3-4-2 観光情報の発信を強化					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	まち魅力発信課、北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	本市ホームページやSNS、広報誌の活用のほか、観光協会と連携してマップの配付や主要駅での情報発信、北おおさか信用金庫と追手門学院大学による「北摂エリアマッププロジェクト」と連携した広域での情報発信に取り組みました。 北部地域については、観光協会や地域と連携し「いばきたフォトサイクリング」や「いばきたハイウェイウォーク」等のイベントも活用して魅力発信に努めました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		観光協会ホームページのアクセス数	件	↗	228,260	167,644	250,000(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-3 ★官民協働で観光事業を推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	イベントなど官民協働での観光まちづくり			
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	民間団体等と協働で取り組む「茨木フェスティバル」「いばらき光の回廊」については、事業者や学生など、多くの方の参画を得て実施し、市内外から多くの来場者に楽しんでいただきました。また、観光協会や民間団体が実施するイベント等を支援し、本市への誘客やまちのにぎわいが創出されました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		主要観光イベントの集客数	人	→	1,117,000	1,102,000	800,000(H31)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学大学院経営管理研究科 肥塚 浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 各施策の現状と課題の評価、総合評価の理由および課題についての記述は概ね適切であることから、総合評価「B」は妥当であると考え。ただし、課題の①と②は重要な重い課題であり、具体的な手立てが求められると考える。 観光情報の発信を強化の参考指標である観光協会ホームページアクセス数は前年比約73%とかなり低下しているにも関わらず、その言及が評価理由に記されていないのは不十分である。 官民協働で観光事業を推進の参考指標は前年より低下しているが、そのことの言及が評価理由にないことは不十分な記述であり、取組の評価として「a」となっている理由が明確でないことから、評価としては「b」が妥当であると考え。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、さまざまな分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題		
	姉妹都市等との交流について、国内姉妹都市の宿泊施設利用補助制度利用者数は444件と、前年度の403件から増加しました。小豆島オーリーブマラソン申込者数についても前年度と同レベルであり、姉妹都市等交流事業について一定の認知がされているといえます。また、国外姉妹都市のミネアポリス市からは市民訪問団を茨木市に受け入れ、茨木市からも市民訪問団を派遣するなど、これまで交流のなかった市民にも新たな交流を拓けることができました。 地域国際化推進については、「国際交流の集い」参加者数・通訳ボランティア派遣数共に、前年度より増加しました。特に、市民と在住外国人・留学生等との交流イベントである「国際交流の集い」では、子ども連れの家族など今まで少なかった年齢層の参加者が目立ち、新たな層へ異文化理解の機会を提供できました。 茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動である実用日本語学習会などを支援するなど、在住外国人の生活環境の向上に努めました。平成29年度には、本市に在住する外国籍住民を対象に、生活状況等把握のためのアンケートを実施した結果、市役所から届く文書や窓口での手続きの際に日本語が分からず困っているという声が多いなど、今後対応していく必要がある課題を明らかにすることができました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	姉妹都市交流についてより多くの市民に機会を提供し、さまざまな分野の交流に関心を持っていただけるようにする必要があります。	
			課題②	日本語が得意でない市民に対する言語面での支援が十分ではありません。	
			課題③		
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、さまざまな「つながり」が生まれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹都市と子どもの絵画・書の交換事業や市民訪問団の派遣・受入れ等の交流事業を実施しました。</p> <p>宿泊施設利用補助制度利用者数は444件と、前年度より増加しました。小豆島オーリーブマソン申込者数についても前年度と同レベルであり、姉妹都市等交流事業について一定の認知がされているといえます。また、ミネアポリス市からの訪問団を受入れたことで、新たな交流を深めることができました。</p>				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	403	444	500(H31)
小豆島オーリーブマソン申込者数	人	↗	53	53	60(H31)		

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H29年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>「国際交流の集い」参加者数・通訳ボランティア派遣数共に、前年度より増加しました。そのほか茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動、市民と在住外国人・留学生との交流イベントの実施、留学生のホームビジットの受入れ等の事業を進めました。また、本市に在住する外国籍住民を対象としたアンケートを実施し、ニーズや必要な支援について調査を行い、本市の状況・今後の課題を挙げることができました。</p>				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H28年度	H29年度	
		国際交流の集い参加者数	人	→	306	340	300(H31)
通訳ボランティア派遣	人	↗	5	10	15		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学大学院経営管理研究科 肥塚 浩 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策の現状と課題の評価、総合評価の理由および課題についての記述は概ね適切であることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・地域国際化を推進するための環境整備の参考指標は順調に伸びており、目標年度の数値を達成する可能性があり、評価理由の内容からして、取組の評価は「a」が妥当であると考えます。